

音楽

音楽的な見方・考え方を働かせ、表現活動の学びを深める授業づくり

音楽科の授業において学びを深めるためには、音楽的な見方・考え方を働かせ、児童生徒が音楽と主体的に関わることが重要です。その際、知覚したことや感受したことを言葉や体の動きなどで表したり、関連付けたりしながら、要素の働きや曲の雰囲気などについて、他者と共有・共感する活動を適切に位置付けましょう。（知覚・聴き取ること 感受・感じ取ること）

「音楽的な見方・考え方を働かせ」とは、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きで捉え、自己のイメージや感情、生活(や社会、伝統)や文化などと関連付けて考えることです。※見方…ゴシック体 考え方…下線 括弧内は中学校

(例) 小学校第4学年 題材名 日本の民謡に親しもう A表現 歌唱イ、ウ 教材「ソーラン節」(北海道民謡)

見方…(例)「ソーラン節」のリズムの反復の働きを聴き取り、リズムの反復の働きが生み出す面白さなどを感じ取ること
考え方…(例)「ヤーレン、ソーラン、ソーラン」「どっこいしょ、どっこいしょ」などのリズムの反復の働きによって生み出される面白さなどを、自己のイメージや感情、歌の背景にある人々の生活の様子などと関連付けること

①リズムの反復の面白さなどを感じ取る場面 T:教師 S:児童

T:「ソーラン節」を聴いたり、歌ったりして、どんな感じがしますか?



S1:力強い感じがします。



S2:とてもにぎやかな感じがします。

②リズムの反復の働きを聴き取る場面

T:音楽のどんな働きからそう感じましたか?



S1:言葉をはっきり言いながら「ヤーレン、ソーラン、ソーラン」のリズムが何度も繰り返されているところからです。

S2:そのほかに、「ハイハイ」と言ったり、「どっこいしょ、どっこいしょ」のリズムが繰り返されていたりするところからです。

S3:私も「ソーラン、ソーラン」や「どっこいしょ、どっこいしょ」のリズムが繰り返されているところから、力強く感じたり、にぎやかに感じたりしました。

Point! 感じ取ったことの原因を要素の働きに求めたり、要素の働きがどのような面白さなどを生み出しているのかについて考えたりすることができるように発問を吟味し、要素の働きや曲の雰囲気などに着目する活動を設定することが大切です。

③リズムの反復の働きによって生み出される面白さなどを自己のイメージや感情、人々の生活の様子と関連付けて考える場面

T:歌からどんなイメージがわかりますか?話し合ってみましょう。



S1:みんなで力を合わせて漁をしている様子が浮かぶよ。



T:ニシンは主に日本のどこでとれる魚かな?



S4:そう言えば、昔は北海道で多くとれたって聞いたことがあるよ。



S2:そうか!だから北海道の民謡なんだね。



S1:ニシンが大漁で、みんなで喜んでいるような感じだね。



S3:「ヤーレン、ソーラン」の力強いリズムや、「どっこいしょ、どっこいしょ」のかけ声は、ニシンをとるときに網を引く様子を表しているんじゃないかな?次は網を引くまねをして歌ってみようよ。

Point! S1からS4は、音楽的な見方・考え方を働かせて音楽に主体的に関わっている児童の発言例です。「ソーラン節」を聴いたり歌ったりしながら、聴き取り、感じ取ったことを自己のイメージや感情、歌の背景にある人々の生活の様子などと関連付けて考え、他者と共有・共感することによって、思いや意図をもって歌う学習が一層深まっています。